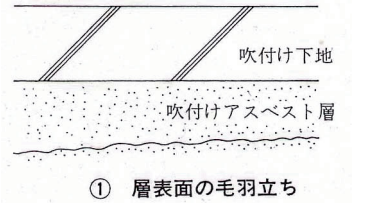

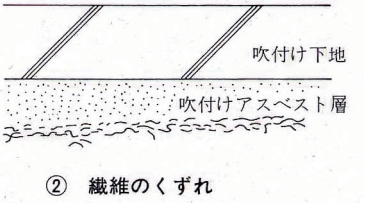

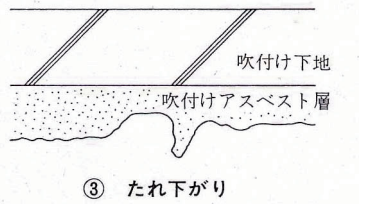

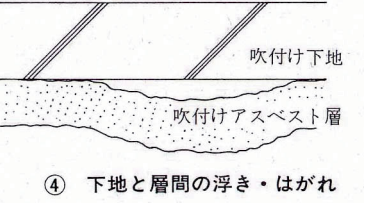

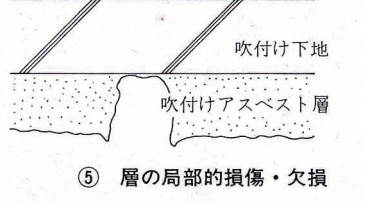

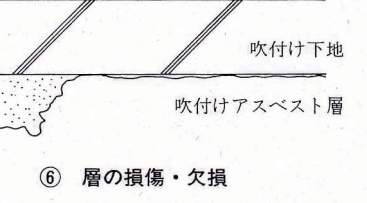



吹付けアスベスト等の劣化状況の確認

吹付け材の劣化・損傷の有無により、維持保全を行うか、何らかの処理が行うかを判断する必要があります。

劣化現象	モデル図	事例写真
<p>①層表面の毛羽立ち</p> <p>吹付けアスベスト層の表層部で結合材の劣化などによってアスベスト繊維が毛羽立っているもの。</p>		
<p>②繊維のくずれ</p> <p>「毛羽立ち」の程度からさらに劣化が進行し、表層、又は表層下部の繊維がほぐれて荒れた状態になっているもの。</p>		
<p>③たれ下がり</p> <p>吹付けアスベスト層の一部が劣化、外力等によって層外へたれ下がっているもの。</p>		
<p>④下地とアスベスト層との間の浮き・はがれ</p> <p>アスベスト層の下地への付着力が低下することによって、アスベスト層と下地との間にすき間、はく離がみられるもの。</p>		
<p>⑤層の局部的損傷・欠損</p> <p>人為的、又は経時的変化によって、アスベスト層の表面、層自体の層間・下地間で生じた局部的な凹凸、はく落、はく離。</p>		
<p>⑥層の損傷・欠損</p> <p>人為的、もしくは経時的変化によって生じた施工面のほぼ全面にわたる凹凸、はく落、はく離。</p>		

出典：既存建築物の吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術指針・同解説